

平成26年全国及び岡山県学力・学習状況調査結果 結果と今後の取組について

津山市教育委員会学校教育課

調査結果の分析

全国学力・学習状況調査 平均正答率 [対象:小学6年、中学3年] 単位%

校種	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
全国	72.9	55.5	78.1	58.2	79.4	51	67.4	59.8
岡山県	71.4	54.5	77.8	56.6	78.2	48.1	65.4	55.9
津山市	70.2	49.7	76	51.2	75.6	44	59.3	49.4
県との差	-1.2	-4.8	-1.8	-5.4	-2.6	-4.1	-6.1	-6.5

岡山県学力・学習状況調査 平均正答率 [対象:中学1年] 単位%

校種	H26 中学校1年							
	国語	社会	算数	理科	国語	社会	算数	理科
岡山県	67.4	53.9	57.7	52.4				
津山市	64.9	51.8	56	49.8				
県との差	-2.5	-2.1	-1.7	-2.6				

全国及び岡山県学力・学習状況調査の概要

<学力状況調査>

小中ともに、国語A、B、算数(数学)A、Bともに県平均を下回っている。A(基礎)については、県平均を-2.6~-1.8ポイント下回っている。本市の平均正答率は県を下回っている教科が多く、確実な理解や技能の定着において課題がある。B(活用)については、小国語Bで-4.8ポイント、小算数Bで-5.4ポイントと昨年度よりも県平均との差が広がっている。中学校は中国語Bは昨年度並みの-4.1ポイントであるが、数学においては数学A(基礎)も数学B(活用)も県平均との差が6ポイントと大きく広がり、深刻な状況である。基礎的・基本的な知識・技能を問う問題の正答率は概ね高いが、思考力・活用能力・表現力・読解力等の活用型の問題の正答率は低い。特に、中学校では、国数ともほぼ全問題で県平均を下回った。漢字の読みや式の計算については、特に、四則計算や小数の加減については、徹底して取り組んできた成果が出ている。小国語Aでは3/15問、小算数Aでは4/17問が全国平均を越えている。

例:【100×2×4】は89.9ポイント(全国80.9)、【9÷0.8】は85ポイント(全国83.8)

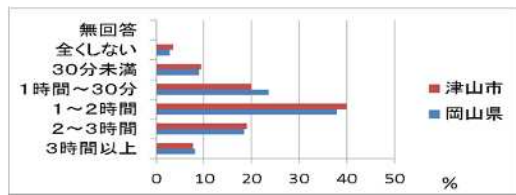
中学校では、国語A数学A Bにおいて、ほとんどの問題で無解答率が県平均の2~3倍である。小学校では国語B算数Bの多くの問題で無解答率が県平均と同様に文章での表現や記述の問題では無解答率が高い傾向がある。特に、本調査では無解答率が上昇し、大きな課題である。全体的には県との差がここ数年縮まっており、学力向上に向けた取組には一定の成果が見受けられるものの、H26の結果では差が開いた。本市の上位校は各教科とも大きな改善傾向が見られる、一方、下位校において県との差が多くなっている。学校間格差が大きくなっている。全国や県との差が著しく低い問題の特徴としては、条件付きの記述問題や、比べて書く、図で説明する等、これまでも課題とされた問題である。

<学習状況調査>

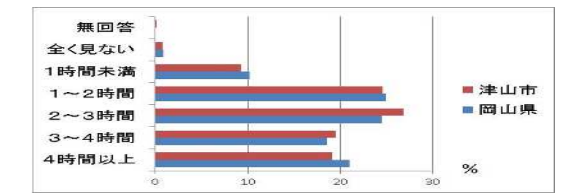
経年変化から、主に、テレビ等の視聴時間(3時間以上)、全く家庭学習をしない児童生徒、全く読書をしない児童生徒については、改善が進んでいない。学校図書館や地域の図書館に行く児童生徒が多い。特に、小学校は全国・県より多い。地域の行事への参加は、肯定的な回答が全国・県より高く、地域とのつながりがみられる。学習塾へ通う割合が県や全国よりも高い一方、家庭での学習時間は依然少く課題である。小中学校とも自尊感情に係わる項目は、全国・県に比べて肯定的な回答が少ない。小学校における放課後の補完的な学習サポートの実施は、全国と比べて少ないが、昨年度よりは改善がみられる。小中学校とも、授業研究や講師を招聘しての校内研修、実践的な研修等の項目については肯定的な回答であるが、中学校においては指導方法の工夫等に関して課題が見られる。「各教科の勉強が好き」「授業内容がよく分かる」等、情動面の回答率は改善がみられ、これまで行ってきた授業改善に向けた取組の成果と考えられる。「学習のねらいや目標を明確にする」の項目は改善傾向がみられる。「グループで考えを出し合い深め合う」「学習の振り返りをする」等の項目は、依然として県平均を下回っており、授業改善を一層推進する必要がある。

全国及び岡山県学力・学習状況調査の質問紙において特徴が見られた項目

質問内容	普段の家庭学習の時間 (中1 県調査)						
	3時間以上	2~3時間	1~2時間	1時間未満	30分未満	全くしない	無回答
岡山県	8.1	18.5	38	23.6	9	2.8	0.2
津山市	7.7	19.1	39.9	20	9.5	3.6	0.1
県との差	-0.4	0.6	1.9	-3.6	0.5	0.8	-0.1

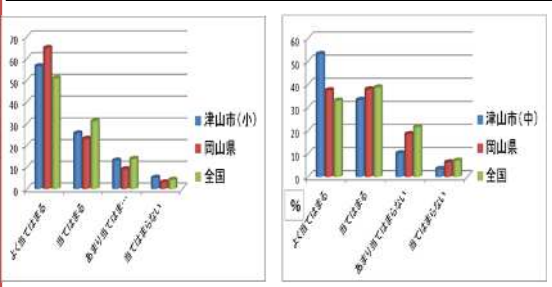


質問内容	普段のテレビ等の視聴時間 (中1 県調査)						
	4時間以上	3~4時間	2~3時間	1~2時間	1時間未満	全く見ない	無回答
岡山県	21	18.5	24.5	24.9	10.2	0.9	0
津山市	19.1	19.5	26.8	24.6	9.2	0.8	0.1
県との差	-1.9	1	2.3	-0.3	-1	-0.1	0.1

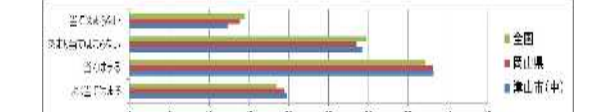


質問内容	授業のはじめに、学習のねらいや目標が示されていたか			
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
津山市(小)	56.4	25.5	13	5.1
岡山県	64.8	23	9	3
全国	50.9	31.1	13.8	4.2

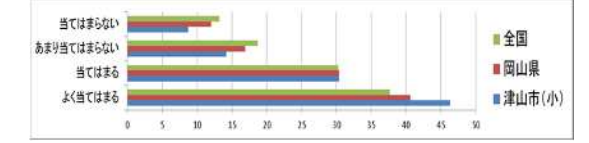
質問内容	授業のはじめに、学習のねらいや目標が示されていたか			
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
津山市(中)	53.1	33.2	10.1	3.3
岡山県	37.4	37.8	18.4	6.2
全国	32.9	38.6	21.5	6.9



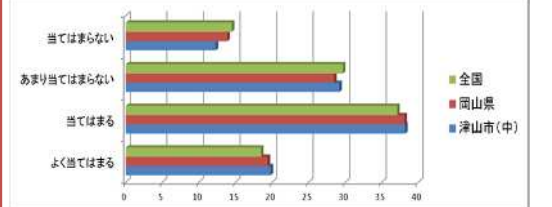
質問内容	話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりできていますか			
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
津山市(中)	19.8	38.2	29.2	12.3
岡山県	19.4	38.1	28.5	13.9
全国	18.5	37.1	29.7	14.5



質問内容	地域の行事に参加していますか			
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
津山市(小)	46.3	30.4	14.2	8.7
岡山県	40.6	30.4	16.9	12
全国	37.7	30.3	18.7	13.2



質問内容	地域や社会で起きていることに問題や、出来事に関心がありますか			
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
津山市(中)	19.8	38.2	29.2	12.3
岡山県	19.4	38.1	28.5	13.9
全国	18.5	37.1	29.7	14.5



質問内容	読書は好きですか			
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
津山市(小)	45.7	24.3	16	13.9
岡山県	53.1	22.9	13.7	10.1
全国	48.9	24.1	15.9	11



成果と課題

これまで調査問題を活用した授業改善、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る取組を進めてきた。具体的には、設問毎の正答率の分析から、特に、小学校においては、四則計算や小数の計算等について、たしかめプリントなどを各校で工夫して繰り返し取組んだことで、全国平均を大きく上回るなどの一定の成果があった。

外部講師や指導主事を招聘しての授業改善の取組は、着実に進んでおり、授業そのもののへの教師や子どもたちの意欲は高まっている。

例:「授業のはじめにねらいや目標が示されたか H24: 40.8% H26: 59.6%」
 「グループの中で考えを出し合ったり、深め合ったりしたか H24: 44.9% H26: 52.2%」
 一方で、取組がやや単純化、矮小化された傾向があり、特に、活用問題等への対策の意識が低かった。調査問題で課題とされたこと(例:割合や小数倍、の意味や面積に関する問題、1文を2文に直したり、条件が示された中での記述式の問題など)の授業中における具体的な取組が不十分であった。

小中学校ともに、無解答率がほとんどの問題で上昇していることは、日常的な指導のあり方を各校で見直すことが必要である。

(ノートに等に意見を書かせる場面や、授業のまとめ、日常的なテストやプリント等への向き合わせ方など)小・中学校とも、授業と家庭学習をつなぐ意識や家庭時間の確保については、依然として課題が見られる。テレビの視聴時間は減少傾向にあるが、ケータイやスマホ等SNSの使用時間や使用法のあり方の検討。

課題に対応した改善方法

調査で明らかになった課題を踏まえ、本市の教育課題を明確にし、「津山市学校力向上推進プラン」をもとに、「わかる授業・楽しい学校」に向けた取組を着実に推進していく。

設問毎の比較表を作成し、つまずきや課題を明確にし、今後の各学校の授業改善や教科指導等に活用する。各学校においては、中学校ブロックでの検証をもとに、成果と課題を明らかにし、校区の取組も視野に入れた「学力・学習状況改善プラン」を作成し、今後の指導に活用する。

検証結果を踏まえ、本市の教育課題を明確にし、今後の教育施策の改善や現在取り組んでいる「げんばプロジェクト」への反映を図る。また、確かな学力を育成する日常授業の改善と、学習指導の充実に取り組む。

家庭での学習習慣については、引き続き課題が見られるので、家庭学習時間についての把握と、学校と家庭及び地域が一体となった取組の充実が必要である。

【学力向上に向けた7つの取組】
【全体】・教務主任(研究主任)会議の開催(9/30、10/3、10/7、10/23)
【課題校・指導力】・改善プランの進捗状況の確認・学力調査官等を招聘しての研修会の開催 10月~
【中学数学】・中学校数学「活用問題」プロジェクト(仮称) 10月~
【若手教員指導力】・若手教員を対象とした勉強会(自主研修会) 10月~ (10回程度)
【課題校】・学習支援員の配置 10月~1月
【全体】・小4、小5、中2の「たしかめテスト」へ向けた具体的な取組 10月~
【課題校】・授業改革推進員事業とタイアップした授業改善 10月~

取組の検証方法及び検証時期

指定研究事業や授業公開等による改善状況の把握
 小3、小5の標準学力検査の実施(小3は3学期、小5は1学期。結果を受けて改善策の見直し)
 hyper-QUによる児童生徒の実態把握(小5と中1で2回実施)
 小4、5、中2に学力定着状況たしかめテストの実施
 家庭学習強化週間の実施(チャレンジハッピーデー等)

達成目標(数値目標)

全教科とも県の平均正答率を上回る。
 全く家庭学習をしない児童生徒の割合を0にする。
 家庭学習(1時間以上)の割合を県平均以上にする。
 若手教員の勉強会は7回以上行う。
 学力調査官の招聘は2回以上行う。
 指導主事による学校訪問は、小中合わせて30回以上行う。

